

# 株式会社エージーピー

## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算 機関投資家向け説明会（オンライン）

### 主な質疑応答（要旨）

【日 時】 2024年10月31日（木）14:00~15:00

【説明者】 代表取締役 社長執行役員 CEO 杉田 武久

取締役執行役員 兼 CFO 竹山 哲也

取締役執行役員 兼 CSO 辻 佳子

---

※本質疑応答資料は、説明会での発言をそのまま書き起こしたのではなく、加筆・修正等を加え、当社の判断で簡潔に纏めたものであることをご了承ください。

また、この質疑応答については、10月31日決算説明会時点の情報に基づき作成したものであり、当社の将来の業績を保証するものではないことをご了承ください。

#### 【質 問 1】

経営トップが交代してから少し時間が経過しているが、大株主、客先との事業上の良い変化、悪い変化は生じているのか。

#### 【回 答 1】

良い点としては、株主からの社長ではないことで、社員のモチベーションは高くなっていると感じる。また、外形的な見られ方としても、上場企業としての適切なガバナンス水準を備えてきたとの理解を得られやすくなったのではないかと考えている。悪い変化については、これまでの慣習からエージーピーは変化を起こしている過渡期であると考えており、ガバナンスについて理解が得られていないのではないかと、少し時間がかかるのではないかと考えている。

#### 【質 問 2】

中間期の好調さを背景に通期業績予想の上昇修正を行っているが、エージーピーの業績は下期に偏重する傾向があると想定している。下期計画は売上増収、営業利益ベースでみると上期とほぼ横ばいに見受けられるが、その理由は何なのか。

#### 【回 答 2】

売上およびセグメント利益は下期偏重と予想しているが、下期は全社費用が事業投資の検討における活動等により大きくなる見込みであり、営業利益ベースでは下期偏重傾向が薄くなっている。

#### 【質 問 3】

人件費などコスト上昇圧力は今後も続くと思われる。コスト上昇分を転嫁するための値上げは、現在行える状態なのか。エアラインの感触も含めて現状認識を教えてください。

#### 【回 答 3】

動力供給事業については、前年の2023年4月より、原材料費の変動に応じた価格転嫁を開始しているが、全ての課題が解決している訳ではない。ここ10年間の材料や工事コストは軒並み値上がりし、電線関連は1.7倍に高騰、人件費は1.5倍と高騰している現状がある。適正な料金の価格設定について、より利用していただける魅力的な料金メニューの改定について、現在検討を行っている。

本料金メニューの改定は、エージーピーの設備をより使いやすく、環境インセンティブなどを加味したメニューとして検討を進めているが、実現に向けての交渉には、ハードルもあると考えている。コミュニケーションをとりながら、メニュー改定を進めていきたい。

【質問4】

上場を維持し、かつ独立した経営を維持するためには、株価を上げることが不可欠。社長のご認識はいかがか。また、今後1年ほどで株主価値を上げる施策は何なのか。

【回答4】

当社は独立した上場企業であり、相応しい水準のガバナンスを備え、公正で透明性の高い経営を実践することが重要だと考えている。上場会社としての基盤をしっかりと整えたいと、企業成長に向けた取組を推進していく。

成長事業の創出を進め、事業成長を成し遂げることで、業績を向上させることで、株主価値の向上を目指す。

【質問5】

中期経営計画の具体的な数値目標を改めて教えてほしい。

【回答5】

2022年度から2025年度中期経営計画では、最終年度である2025年度において、売上高150億円以上、営業利益率/ROEについて10%以上を業績目標としている。また、Co2排出量の削減については、33.5万トン以上を目標としており、空港におけるCo2排出量削減の実現に向け推進している。

また、空港売上比率20%以上も、中期経営計画の目標の1つとしている。空港については、ボラティリティの高い業界であることから、事業を安定させるためにも空港売上高比率20%以上を目指している。足元では空港外比率12%となっており、残り8%以上を伸ばしていきたいと考えている。

財務面では、有利子負債を有効活用しながら100億円のキャッシュアロケーションを設定し、積極的な成長投資、設備更新投資、人的資本投資、研究開発投資などを計画するとともに、中期経営計画期間4年間で、総還元性向100%以上と株主還元の充実を図る計画となっており、資本効率を向上させ、自己資本比率50%台を目指している。

【質問6】

今後のグローバル戦略について、タイのほかどのようなエリアをターゲットにしているのか。

【回答6】

現状はタイ王国以外のエリアに対して具体的な投資をする事業展開をする計画はない。しかしながら、他の国からもビジネスに関する声かけをいただいている。全体リソースを考慮し、段階的に海外展開を進めていくことを考えている。

まずは、タイ王国で当社固有の技術である動力供給設備を展開することを目標としている。

【質問7】

新規事業についての具体的な進捗状況について教えてほしい。特に植物工場についての展開はどうなっているのか。

【回答7】

新規事業については、物流保守サービスがあり、空港内のエンジニアリング事業で培った技術力を活かし、空港外へ展開している。物流 2024 年問題の解決に向けて、物流事業の省人化・省力化に貢献する機材・設備を検索し、国内への導入を目指して海外メーカーとの代理店契約を締結し、国内営業を強化している。また、当該物流保守サービス事業については、メーカーからの業務請負ではなく、物流設備オーナーとの直接契約へ転換すべく、交渉を進め、事業成長を目指している。

加えて、空港における動力供給事業の基盤を活かして、空港内における EV 車展開、再エネ利用の普及に必要な AI 蓄電池やエネルギーマネジメントシステムなどの事業に参画すべく、空港管理会社様と協議を始めている。

なお、植物工場事業については 2020 年に撤退し、他社に事業譲渡している。

【質問 8】

株式流動比率上昇へ向けて、大株主の協力は得られるのか。彼らが非協力的だとすると理由はどこにあるのか。

【回答 8】

主要な株主 3 社の流動株式比率の向上に向けての協力については、2022 年度に 7%程の株を放出していただいた。今後も交渉を続けていく。また、自助努力についても検討している。

【質問 9】

自己資本比率も高い状態で、今後の投資は自己資本または借入による調達でエクイティファイナンスは無いと見ていいか。

【回答 9】

「自己資本比率が高止まりしている」というのは、そのとおりです。一方で、当社は、主要空港 8 空港で事業展開しており、日本の空港インフラを下支えする責任があり、全てのお客様に対して、当社設備を安全に利用していただけるよう、インフラサービスを提供し続ける必要性があります。

この設備には、多額の投資が必要ですが、また、定期的に設備更新や各空港の再編にあわせての再投資も必要でありますため、一定の内部留保を確保する必要があります。

今後の資金調達については、この設備の投資回収には 10~20 年かかることから、金融機関の借入だけでは賄えるものではないため、有利子負債を活用しつつも、エクイティファイナンスも必要に応じて組み合わせることも検討の視野に入れていきます。加えて、将来の成長に向けた投資も積極的に計画していることから、これらに必要な資金についても、資本効率を勘案し、debt と equity のバランスをとった資金調達を実行していくことを検討します。

【質問 10】

柏市での野菜収穫イベントの開催の狙いについて教えてほしい。

【回答 10】

エージーピーは創業以来 60 年、空港における脱炭素化に向けたリーディングカンパニーとして事業に取り組み、年間 33 万 t の CO2 削減を実現している。一方で、「誰もがいきいきと働く環境を提供し、地域社会への貢献に取り組んでおり、その一環として、2020 年 12 月より「ソーシャルファームわーくはびねす農園柏第 3」にて障がい者手帳をお持ちの方を雇用し、無農薬野菜の栽培をスタートしている。

この度のイベントは、空港におけるカーボンニュートラルへの取組のみならず、地域社会へ貢献するエージーピーを体験し、理解を深めていただくことを目的としている。

また、こうしたイベント開催によって、いつもとは異なるシチュエーションで野菜収穫などを体験することは、自分達が育てた野菜が中心となって、ステークホルダーの方々との交流が生まれているといった実感を持ち、無農薬野菜を育てている従業員のモチベーションアップにも繋がると思い、企画している。

【質 問 11】

エンジニアリング事業は、利益率も改善し好調に伸びている。これは、サービス価格の改定が堅調なのか、生産性が上がっているのか、要因は何なのか。

【回 答 11】

エンジニアリング事業において、適切なプライシング改善を進めていることは事実だが、人材不足の中、業務効率化に取り組み、品質を担保しながら省人化、省力化を試みた結果、利益改善に大きく貢献している。人件費の増加をおさえつつ、航空需要が回復する中、既存の人員で応需することができた。

【質 問 12】

流通株式比率に関して、エージーピーの取り組みは何なのか。エクイティファイナンスについても述べていたが、公募増資も取り組みの1つなのか。

【回 答 12】

上場維持計画書で開示させていただいてますとおり、過去の経緯から当社株式を多く保有されている3主要株主様に対して、当社株式の保有比率低減に関してご協力をお願いしている状態ですが、諸問題により叶わない場合は、自助努力により何ととしてでも上場維持を堅持したいと考えている次第です。

公募増資についても手段の一つとしては認識しておりますが、株価への配慮が必要であることも理解をしていますので、手段の一つとして慎重に検討していきたいと考えている。

【質 問 13】

GPUの利用率について、目標が2030年までに100%、一方、現状の進捗は中間期でまだ54%とあったが、100%にもっていく方策は何なのか。また、GPUの利用率アップは、業績にいい影響を与えると考えていいのか。

【回 答 13】

エージーピーは空港における環境貢献のリーディングカンパニーとして、主要空港で駐機中の航空機に必要な電気・空調等のサービスを60年に渡り提供しており、ナショナルアジェンダであるカーボンニュートラルに沿って、当社GPU設備の利用率100%を通して、更なる環境貢献を目指し、これを達成するためにも当社設備を使用するすべての航空会社に対して中立的かつ公平に安定したサービスを提供することが重要な使命と考えている。ついては、空港の脱炭素化をともに推進する航空会社様にもメリットがある、環境貢献インセンティブなどを考慮した新たな料金メニューの導入を検討している。AGPは環境貢献と利益創出を両立させ企業価値向上を目指す。

【質 問 14】

社長が今仕事上1番エネルギーを割いていることは何か。

【回 答 14】

ガバナンスをしっかり高めていく、これに注力している。次いで、成長の実現に向けた取り組み、この推進に注力している。

【質 問 15】

成田・羽田、関空、中部空港の3エリアでのそれぞれの売上構成比について、およその比率を教えてください。3つのエリアの伸びの状況を教えてください。また、9空港以外の地方空港についての展開はどうなっているのか。

【回答 15】

売上構成比は成田・羽田エリアで約 60%、関西エリア約 14%、中部エリアが約 4%となっており、FY23 対比では、成田羽田エリアが+ 9%、関西エリアが+ 18%と伸長した一方で、名古屋については、約 4%のマイナスとなっている。

【質問 16】

来年は創業 60 周年だが、記念イベントなどは予定されているのか。

【回答 16】

エージーピーは、今期が第 60 期で、来年は創業 60 周年となる。来年に向け、記念イベントなどの検討を開始したところで、アニバーサリーイヤーを祝う催しを検討している。

以上